A photograph of a museum gallery. The room is brightly lit with recessed ceiling lights. On the left wall, several framed historical photographs are displayed. In the center and foreground, there are several glass display cases on white pedestals. One case in the foreground contains a red and white hat and some documents. In the background, there are more display cases and a table with various items on it. The floor is a light-colored carpet.

第1回 戦災資料の収集と展示等のあり方検討会

令和8年6月5日
富山県厚生部厚生企画課

1. 検討会設置の趣旨

1 検討会設置の目的

富山大空襲をはじめとする戦災を記憶し、平和の尊さを次世代に継承することを目的に、戦災資料の保存・展示・活用等のあり方について検討を行う。

2 背景

県内には、富山大空襲をはじめとした戦争当時の貴重な戦災資料が現存している一方で、戦後80年余が経過し、資料の散逸・劣化に加え、戦争体験の風化が懸念される中、記憶と教訓を次世代に継承していくことが不可欠。

3 検討の必要性

戦災資料の保存・継承に向けては、資料収集や保存方法、展示・活用のあり方などについて整理・検討を進めるとともに、次世代への継承の観点も踏まえ、今後の方向性について幅広く議論を行う必要がある。

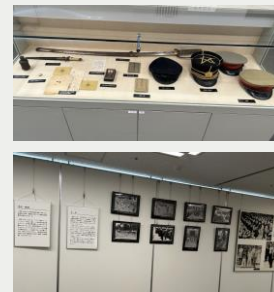
2. 戦災資料の現状 1

1. 現存資料の概要

- ・ 富山県では、毎年県民等から戦災資料の寄付を受けており、現在約1,000点の資料を保有している。
- ・ 上記以外、個人や関係団体等において保有されている資料があると考えられる。

富山県で保管している戦災資料【富山大空襲関連資料含む】

【生活関係】	55種339点	【学校関係】	9種139点
【軍隊関係】	70種249点	【手記、郵便関係】	21種177点
【各種証明関係】	12種80点	【新聞・写真】	16種67点




2. 課題

- ・ 戦争体験者や遺族の高齢化による資料の散逸・劣化、住環境の変化や保管困難等による資料の処分・廃棄などにより貴重な資料が失われるリスク
- ・ 県民等から戦災資料の寄付を受けている中で、収集基準や方針が未整備
- ・ 今後更に増加が見込まれる戦災資料の保管場所や保存環境確保（デジタル化含む）

資料活用を通じ、戦争体験や資料の背景にある記憶・教訓を次世代へ継承していくための前提として、適切な資料収集・保存が必要

2. 戦災資料の現状 2

3. 他県の事例

	岡山空襲展示室 (岡山市)	前橋空襲と復興資料館 (前橋市)
		
設置目的	岡山空襲を中心とした資料を展示し、歴史の事実を認識しながら、先人の労苦を偲び、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継ぐ	前橋空襲の実情と復興の歩みに対する市民の理解を深め、平和を希求する思いを風化させず後世へ継承し、平和な社会の発展に寄与
整備の契機・プロセス	市民団体の要請・民間資料館の閉館に伴う引継ぎ。散逸を防ぐため、開館前から学芸員による資料収集・整理を実施	民間資料館の閉館に伴う引継ぎ。資料の寄付受け入れとともに、市発行の戦災史を基に、展示内容を調査・検討
場所・開設時期	<ul style="list-style-type: none"> 岡山市北区駅元町15-1 (岡山ファミリーシアター内) 平成24年10月開館 	<ul style="list-style-type: none"> 前橋市南町3丁目62-1 (市民文化会館内) 令和7年4月
整備費等	<ul style="list-style-type: none"> 既存公共施設を活用 整備費：約4,800万円 	<ul style="list-style-type: none"> 既存公共施設を活用 整備費：約1.5億円
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 専任スタッフ3名 (全員学芸員) 	<ul style="list-style-type: none"> 専任スタッフ3名 (うち学芸員1名)
資料点数	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示 100点 保管数 約9,000点 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示 100点 保管数 約8,000点
運営上直面する課題	<ul style="list-style-type: none"> 見学増等に向けた学校教育 (小中学校) との連携 保存資料情報等の機能的・効率的な管理 専門人材の確保 (岡山市) 今後増加が見込まれる資料の収集・保管 (前橋市) 	

3. 富山県におけるこれまでの取組み 1

1. 戦災資料展示

【戦時下の暮らし展】

戦後50年迎えた平成7年より実施。

県民から寄付のあった戦災資料展示を中心に、平成8年～平成23年には富山県民会館にて常設展示、平成24年からは、毎年8月15日の県戦没者追悼式前後の期間に開催。

【富山会場】



【高岡会場】



令和7年度は、戦後80年記念として開催、期間展示としては過去最高の入場者数（13日間：約2,000名）を記録

【記念映像の作成】

令和7年、戦後80年の節目にあたり、富山大空襲や戦争を語り継ぐ活動に焦点を当てた映像を作成。

県公式youtubeでの放映や、図書館への配布、小中学校等への貸し出し。



YouTube

[https://www.youtube.com > watch](https://www.youtube.com/watch)

[戦後80年記念映像「平和への願い～富山大空...](#)

この度、戦後80年の大きな節目を迎えるにあたり、戦後80年富山の平和を考える実行委員会（富山県、富山市、株式会社北日本新聞社）では...



3. 富山県におけるこれまでの取組み 2

2. 語り部事業

【戦争体験者等による語り部派遣事業】

戦後60年の平成17年度からは、「戦争体験者等による語り部派遣事業」として、小中学校、児童館、公民館に戦争体験者等による語り部を派遣し、富山大空襲、疎開などの体験を語り伝える事業を実施。



- ・令和8年4月現在で、3名の語り部が登録【最高齢90歳】
- ・令和7年度は、小・中学校18校で実施し、1,339名が参加
※過去21年間で延べ353箇所、24,642名の児童・生徒等が参加
- ・県遺族会や「富山大空襲を語り継ぐ会」など関係機関と連携した事業実施
- ・戦争体験者の減少などにより、事業の継続が課題

3. 慰霊事業

【富山県戦没者追悼式】

昭和38年以来、毎年8月15日に「県戦没者追悼式」を富山県民会館で開催しており、本県戦没者30,765名を悼むとともに平和への誓いを新たにしている。

【戦後80年記念植樹】

毎年、富山市八ヶ山の忠霊塔広場にて行われる慰霊祭にあわせ、戦争の記憶継承と平和への願いを込めた桜の記念植樹を実施。



富山県戦没者追悼式
【R7.8.15】



戦後80年記念植樹
【R7.8.4】

4. 検討課題

検討に向けた全体像

【あり方検討にあたってのポイント】

収集・保存、展示・活用を有機的に連携させるあり方の検討

保存基盤

(資料を適切に収集・保存する施設機能)

収集

どこから、何を集めるか



- ・どのような資料を対象とするか
- ・調査・収集・寄贈の仕組みづくり

保存

いかに守るか



- ・長期的な保存場所、保存体制をどう整備するか
- ・デジタル化をどう進めるか

活用基盤

(未来へ繋ぎ、学びや理解を広げる機能)

展示

展示をどう実現するか



- ・常設展示の必要性や効果的な場所
- ・展示のあり方をどのように整理するか(体験型、参加型)

活用

次世代への継承にどう接続させるか



- ・学校教育との連携をどう進めるか
- ・県民機運の醸成にどう繋げるか
- ・語り部等との連携をどう進めるか

【考慮が必要な要素】

- ・学習や交流機能
- ・デジタル環境
- ・情報発信
- ・バリアフリー

など

運営体制

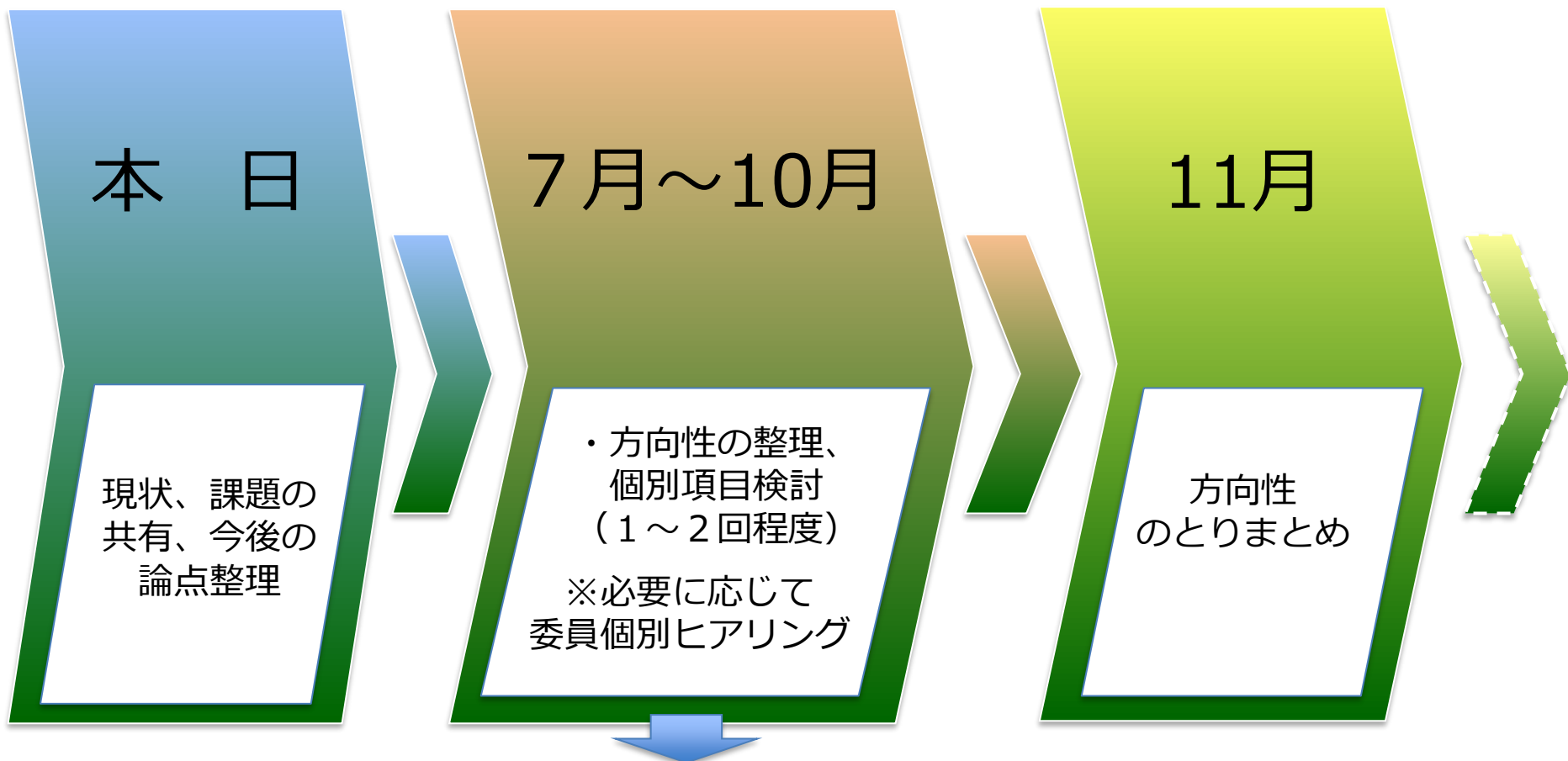
(県、富山市、民間団体等の役割分担と連携機能)



- ・継続的な運営体制(人材確保、コスト)をどのように整理し、進めていくか
- ・学芸員等の専門人材確保、保存・資料管理の専門性確保、教育、普及の機会確保

5. 今後のスケジュール

今後の検討スケジュール及び項目（案）



※8月13日～18日の期間、戦時下の暮らし展においてアンケート調査も実施